

## 会告

### 第 25 回（2022 年度）認定輸血検査技師試験の結果

令和 5 年 1 月 10 日

認定輸血検査技師制度  
協議会 会長 岡崎仁  
審議会 会長 加藤栄史  
試験委員長 加藤栄史

本試験制度は、一次試験を筆記試験、二次試験を実技試験とした。また、二次試験受験資格者は一次試験合格者とした。さらに、実技試験の採点方式も、加点法であり、以前からの実技試験で大減点とされていた問題（血液型判定、可能性の高い不規則抗体など）を、一次試験および二次試験での必須問題とし、必須問題を全問正解することを合格の条件とした。また、必須問題は配点がなく、必須問題以外の問題を採点した。本年度は、新型コロナウイルス感染症による蔓延から始めての実技試験である。

#### 【1】 一次試験（筆記試験）

##### 1. 受験申請者数：252 名

実受験者数：236 名（辞退者 14 名、欠席者 2 名）

##### 2. 試験結果

- 1) 知識問題：平均点 65.5 点（最高点 93.8 点、最低点 30.2 点）
- 2) 臨床問題：平均点 74.0 点（最高点 98.5 点、最低点 28.4 点）
- 3) 2 科目合計：平均点 69.7 点（最高点 92.5 点、最低点 29.3 点）
- 4) 必須問題：正解者数 152 名（64.4%）
- 5) 合格者数：124 名（合格率 52.5%、124 名/236 名）
  - ・ 新規受験者：70 名（合格率 52.2%、70 名/134 名）
  - ・ 再受験者：54 名（合格率 52.9%、54 名/102 名）

##### 3. 試験内容と講評

認定輸血検査技師制度第 25 回一次試験（筆記試験）は 6 月 25 日（土）、ベルサール神保町（東京）を会場に行われた。一次試験は知識問題と臨床問題の 2 科目で行った。知識問題は試験時間が 90 分間で、マークシート問題と記述問題と

し、臨床問題は同じく 90 分間の試験時間で、記述問題とした。内容は輸血医学の基礎、輸血検査（基礎、血液型検査、不規則抗体検査など）、輸血に関連する臨床、計算問題、カラムやマイクロプレートの検査問題などとし、症例問題として血液型判定、可能性の高い抗体については必須問題とした。難易度は昨年的一次試験とほぼ同じで、平均点は 69.7 点と昨年の平均点（63.5 点）と同程度であった。ただし、血液型判定や可能性の高い抗体同定など、輸血検査で誤りが許されない問題（必須問題）に対して 84 名（35.6%）が不正解であった。検査に関する基本的な理解を習得して頂きたい。

## 【2】 二次試験（実技試験）

### 1. 受験者数

- ・ 申請者 305 名の内、本年度の一次試験合格者が 124 名、二次試験のみ（2021 年一次試験合格者も含む）が 181 名であった。
- ・ 申請者 305 名で、辞退者 12 名で、実受験者数は 293 名であった。

### 2. 試験結果

#### 1) 成績

- ・ 平均点：81.0 点（82.1 点）、最高点：99.0 点（98.3 点）、最低点：57.5 点（53.7 点）  
（ ）は 2019 年の成績
- ・ 血液型検査（平均点：85.8 点、最高点：98 点、最低点：43 点）
- ・ 抗体検査（平均点：76.1 点、最高点：100 点、最低点：40 点）

#### 2) 合格者数

- ・ 合格者数：129 名  
（二次試験での合格率 44.0%、129 名/293 名、  
一次・二次総合での合格率 31.9%、129 名/405 名）

### 3. 試験概要と成績

#### 1) 概要

認定輸血検査技師制度第 25 回二次試験（実技試験）はコロナ禍での実技試験で、試験会場に収容可能な受験者数が限定されている状況下で実施した。試験日は 8 月 28 日（日）、杏林大学（東京）、修文大学（愛知）、神戸常盤大学（兵庫）の 3 会場で行われた。申請者 305 名で、コロナ感染症による辞退者を含めて 12 名が辞退され、実受験者数は 293 名であった。これは 3 年ぶりの二次試験であり、2021 年は一次試験のみを実施したことから、過去にない

受験者数となった。

試験問題は今年度から血液型検査、抗体検査（交差適合試験を含む）の 2 科目に減らし、1 科目の試験時間も従来通りとした。血液型検査は 3 題、抗体検査は 2 題とした。しかしながら、抗体検査に関しては、遠心機の台数が不足している事から試験時間を 15 分間延長で 95 分間とした。

## 2) 実技試験の講評

全科目の平均点は 81.0 点と高得点であり、血液型検査、抗体検査の平均点は各々 85.8 点、76.1 点とやや抗体検査の平均点が低い傾向が認められた。また、2019 年度の平均点 82.1 点と比較しても大差がなく、難易度はこれまでとほぼ同程度と考えられた。ただし、これまでと同様に、二次試験の合格率が 44.0%と低迷していた。その要因として、必須問題の不正解者が 142 名（48.5%）であった事が原因と考えられる。特に、検査の基本である検査対象患者の番号が未記入の受験者がわずかではあるが、認められた。受験者はもう一度、基本的な手技、手順などを復習する必要があると考えられた。

血液型検査に対する試験では、平均点が 85.8 点と高得点であった。多くの受験者は判定結果の解釈や、その後の検査や輸血の対応など必要な知識を習得していると考えられた。ただし、血液型判定（再検査を含む全ての検査判定）などの必須問題での不正解者が 126 名（43.0%）も認められた。血液型判定検査は輸血関連検査の中で、最も重要かつ基本であり、もう一度、検査手順方法も含めて復習して頂きたい。また、問題文をよく読んでいない受験者が散見され、日常検査と同じく、注意深く実技試験に臨んでもらいたい。

抗体検査に対する試験では、平均点が 76.1 点と血液型検査よりは 10 点ほど低いが、必須問題の不正解者が 32 名（10.9%）と昨年より減少した。多くの受験者は判定結果の解釈や、その後の検査や輸血の対応など必要な知識を習得していると考えられた。ただし、不規則抗体同定検査で自己対照を実施していない受験生が散見され、検査手順を含めて復習して頂きたい。

## 3) 試験結果の通知表記

今回、血液型・抗体の全てにおいて及第点を取得し、必須問題が正解した受験者が合格となる。評価ランクに関しては、必須問題が正解の受験者に対して、一定の基準にて A～F に分け、絶対的評価とし、必須問題不正解の受験者に対して、及第点の有無で G と H に分けた。各科目および総合で基準点以上かつ必須問題正解を A～C とし、合格者とした。必須問題正解で基準点未満を D～F に分け、さらに、必須問題は不正解で基準点以上を G、基準

点未満を H とし、D～H の受験者は不合格とした。

#### 4. まとめ

新型コロナ感染症による蔓延で、試験（2020 年度）が中止となって以来、3 年ぶりの二次試験（実技試験）であった。また、コロナ禍で実施する事から、感染対策上、試験会場の収容人数が制限され、東京、愛知、兵庫の 3 会場で実施する事になった。更に、試験中止により受験者数が約 300 名となり、必要と考えられる遠心機の台数を確保する事が困難であった。その為、不規則抗体検査では 2 名に 1 台であり、受験者の負担が生じた。これまでにない特殊な環境下において実施した試験であったが、今回の二次試験（実技試験）はこれまでと同等の平均点であり、合格率であった。ただ、必須問題の不正解で不合格になる受験者がやや増加し、基本的な手技、知識を再修得する必要があると考えられた。

### 【3】 第 25 回認定輸血検査技師試験の総合結果

#### 1. 受験者数

- ・ 申請者数は 433 名で辞退者が 26 名、欠席者が 2 名で、実受験者数は 405 名であった。

#### 2. 総合判定結果（一次・二次試験の総合判定結果）

- ・ 今回の試験を受験された受験者 405 名中、合格者数は 129 名（合格率:31.9%）であった。

#### 3. 試験成績について

全体の合格率は 31.9%（129 名/405 名）で、2019 年度の 27.8%に比して、やや高い合格率であった。要因の一つに、一次試験が平均点、合格率ともに過去 5 回の試験で最も良い成績であったことが挙げられる。但し、二次試験に関しては、これまでと同様に 50%未満の合格率であった。今回は必須問題が不正解であった受験者が多く、基本的な手技、知識を確認する必要があると考える。認定輸血検査技師を取得した技師は輸血検査におけるスペシャリストであり、輸血検査結果が患者生命予後に影響することを念頭に検査管理・業務・教育を遂行されている。その意味で、本試験は検査技師が資質に到達しているかを見極める試験と考える。今回、残念ながら合格に至らなかった受験者は、更なる研鑽を積み、来年以降に合格される事を希望する。